防衛大臣 中谷元 様
陸上幕僚長 森下泰臣 様
陸上自衛隊中部方面総監 遠藤充 様
陸上自衛隊今津駐屯地司令 阪井邦丸 様

日米豪共同訓練はただちに中止を求めます

2025年6月13日
日本共産党滋賀県委員会
さとう耕平暮らし雇用対策委員長
日本共産党滋賀県議団
日本共産党高島市議団

陸上幕僚監部は4月10日、9月に中部方面区内などで米豪軍と中部方面隊による実動訓練（オリエント・シールド＝東洋の盾）を実施すると新年度の「陸上自衛隊主要訓練・演習の年度広報」で発表しました。オリエント・シールドは、米陸軍と陸上自衛隊が毎年実施している国内最大規模の実動訓練です。今回の訓練の場所・内容について陸自は明らかにしていませんが、中部方面区内ではこれまで、120mm迫撃砲などの実弾射撃訓練が唯一できる饗庭野演習場（高島市）で繰り返されており、今回も饗庭野演習場での実施が濃厚です。饗庭野で実施されれば、20回目の日米共同訓練、初めての日米豪共同訓練になります。

2021年以降のオリエント・シールドは、米陸軍MDO（マルチドメイン作戦）と、陸自CDO（領域横断作戦）を連携した実動訓練を行っており、陸・海・空だけでなく、宇宙・サイバー・電磁波など、敵国を制圧するためにあらゆる分野で共同し、対中国を想定した危険な訓練に様変わりしています。その上、米トランプ政権のピート・ヘグセス国防長官は「平和を求めるのであれば、戦争の準備をする必要がある」と強調。日本が「戦闘力、殺傷能力、即応力を高めること」「西太平洋であらゆる有事に直面した場合、最前線に立つ」ことを求めています。今回の日米豪共同訓練は、2022年末の「安保三文書」、昨年11月の日米豪3カ国防衛相共同声明などに基づき、「平素から緊急事態まで切れ目なく自衛隊・豪州軍・米軍が実効的に連携する態勢を構築する」（中谷防衛相）ことが目的とみられます。こうしたもとの今回の訓練は、憲法違反の「敵基地攻撃」にとどまらず、国連憲章違反の先制攻撃のための訓練となり、断じて容認できません。

2021年の饗庭野でのオリエント・シールドでは、訓練期間中に120mm迫撃砲弾が演習場外に着弾する、人命を奪いかねない重大事故が起きました。しかし、共同訓練は中止されず、人命より軍事が優先されました。今年2月には、155mm榴弾砲が場外着弾したとみられる重大事故が繰り返され、住民は不安と怒りを強めています。ところが事故原因の究明ができていないばかりか、いまだに砲弾も発見できない深刻な事態で、実弾訓練が実施できないのは誰の目にも明らかです。

いま求められているのは、東アジアの軍事的緊張を激化させる「戦争の準備」ではなく、外交による「平和の準備」です。日本共産党は、「外交ビジョン」で、東南アジア諸国連合（ASEAN）と協力し、地域のすべての国ぐにを包摂する枠組みを強化し、東アジアに平和を創出していくという、憲法9条を生かした外交提言を行っています。

軍事同盟強化や大軍拡をきっぱりとやめ、外交による平和創出に徹することこそ、平和をつくる希望となります。「戦争の準備」のための日米共同訓練は、絶対に認められません。ただちに中止するよう強く求めます。

以上